

# 文化



熊田千佳慕 「恋のセレナーデ」

生きたの肌には光を身に染み込ませて、ゆるめるレンズがない。像を結ぶ網膜もない。色を感じる視物質もない。しかし彼らは確かに光の動きを捉え、世界の動きを感じる。それは魚が水に気(1991年 水彩、紙 25・7×43センチ)

「温泉」とかけて「サラリーマン」ととく。その「温泉」は、「サラリーマン」から引かれまじり、はつきりいつてタメサラリーマン。40歳を間近に控えて失業した頃になぜダメだったかを考えた結果、嫌なことを嫌々やっていたからという結論に達した。それなら好きなことをやるしかない。2004年、こうして私はなぞかけ作りを始めた。塾で小中学生や高校生に国語や社会を教えながらブログで地道になぞかけを発表していたら、雑誌などで取り上げられるようになった。さらには、お声がかかってテレビのバラエティ番組になぞかけ作品を提供するようになった。私のなぞかけの仕事が増えたのは、ねづっちさんがブームを起してくれたおかげ。本当に感謝している。なぞかけのいいところは誰も傷つかないこと。

## 1日1作なぞかけ発表

◇整わせ7年、そのころは…笑わせる楽しさに◇

安楽庵 えの でん

自分や他人をおとしめて笑いを取るのとは違い、笑ってもらえる上に「知識が多い」「頭の回転が速い」とこちらが感心されることすらある。



講座開設、脳トレにも人を笑わせることの感懐を、多くの人に味わってほしい。そんな思いから、最近、一般の方向け



所沢市の公民館で開いた「なぞかけ講座」

分けて2種類ある。発音でかけるタイプと、意味で見つける、というのがなぞかけ作りの基本的な手順。普通の人でも簡単に作れる。やはり語彙の多い方が有利なので、子供より大人向け。塾で子

「なぞかけ講座」も始めた。作り方の基本やなぞかけの歴史などを教えて、参加者には実際に作品を作って発表してもらった。3月に埼玉県所沢市の公民館で開いた際は約50人が集まり、大いに盛り上がった。塾講師をしていたので、教えることと場を和ませることは得意。どこで何が役立つかわからないものだ。ここになぞかけ講座を少し。なぞかけは大きく

ンセン(源泉・厳選)がつきものです」「とどいきました!Wコロンのは脳を鍛えることにもつながるので、高齢者にもぴったりだ。私はなぞかけ作りのため、日々活字に触れるようにしている。新聞や本を読んでも、使えそうな言葉を探す。歩いているときも風呂に入っているときも、年がら年中なぞかけのことを考えている。もちろん調子の良さもある。人前で言っても分る日もあればまったく出ない日もある。自分でも驚くのが、これだけ作ってもなぞかけは尽きないということ。いくらでも作れてしまう。日本

「なぞかけ講座」も始めた。作り方の基本やなぞかけの歴史などを教えて、参加者には実際に作品を作って発表してもらった。3月に埼玉県所沢市の公民館で開いた際は約50人が集まり、大いに盛り上がった。塾講師をしていたので、教えることと場を和ませることは得意。どこで何が役立つかわからないものだ。ここになぞかけ講座を少し。なぞかけは大きく

「なぞかけ講座」も始めた。作り方の基本やなぞかけの歴史などを教えて、参加者には実際に作品を作って発表してもらった。3月に埼玉県所沢市の公民館で開いた際は約50人が集まり、大いに盛り上がった。塾講師をしていたので、教えることと場を和ませることは得意。どこで何が役立つかわからないものだ。ここになぞかけ講座を少し。なぞかけは大きく

「なぞかけ講座」も始めた。作り方の基本やなぞかけの歴史などを教えて、参加者には実際に作品を作って発表してもらった。3月に埼玉県所沢市の公民館で開いた際は約50人が集まり、大いに盛り上がった。塾講師をしていたので、教えることと場を和ませることは得意。どこで何が役立つかわからないものだ。ここになぞかけ講座を少し。なぞかけは大きく

## 抄

「大学教授 3年前、武蔵野大学社会学部60周年イベントにも学生と一緒に駆けつけてくれた。東京・銀座をジャックするといった仕掛けを見て、彼は「こんな伝え方もあるのか」と驚いていた。「媒体」を研究する皮ひらとして、

「大学教授 3年前、武蔵野大学社会学部60周年イベントにも学生と一緒に駆けつけてくれた。東京・銀座をジャックするといった仕掛けを見て、彼は「こんな伝え方もあるのか」と驚いていた。「媒体」を研究する皮ひらとして、

## 教授

一郎

「媒体」を研究する皮ひらとして、

「大学教授 3年前、武蔵野大学社会学部60周年イベントにも学生と一緒に駆けつけてくれた。東京・銀座をジャックするといった仕掛けを見て、彼は「こんな伝え方もあるのか」と驚いていた。「媒体」を研究する皮ひらとして、

「大学教授 3年前、武蔵野大学社会学部60周年イベントにも学生と一緒に駆けつけてくれた。東京・銀座をジャックするといった仕掛けを見て、彼は「こんな伝え方もあるのか」と驚いていた。「媒体」を研究する皮ひらとして、

「大学教授 3年前、武蔵野大学社会学部60周年イベントにも学生と一緒に駆けつけてくれた。東京・銀座をジャックするといった仕掛けを見て、彼は「こんな伝え方もあるのか」と驚いていた。「媒体」を研究する皮ひらとして、